



# JSQC ニュース

No.293

発行 社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス アジアの品質管理活動の実際
- 2-ルポルタージュ 第340回中部事業所見学会ルポ
- 2-ルポルタージュ 第341回事業所見学会ルポ
- 3-第105回関西講演会ルポ/4月の入会者紹介/選挙告示/教員公募
- 4-7th ANQ Call for Papers/行事案内

## アジアの品質管理活動の実際

国際委員会 委員 安藤 之裕

改めて考えると、アジアの品質管理活動は、日本の品質管理活動と比較して特筆すべきことが思い浮かばない。逆に言えば、アジアの品質管理活動の実態とは、既に、現在の日本の実態と比較してまったく違和感が無いというのが筆者の実感である。

ウソだと思われる方は、ANQ Congress 2009 Tokyo (9月15日～18日)に参加し、ご自身の目と耳と体でご確認頂きたい。

筆者のアジア諸国での品質管理体験と言え、25年間12カ国で2000日程の現地での活動と、Asian Network for Quality (ANQ) 等での交流、ならびに、日本での国際セミナー程度のことであるので、多様性がありかつ変化が激しい「アジアの品質管理活動の実際」について申し述べるなどはまったくおこがましい次第である。

しかし、その実体験では、現段階で日本とアジアの間では、群内変動が大きく群間に有意差が見られない。

日本が優れているとされた点が、既に多くのアジアの企業で換骨奪胎されて広く普及している一方で、アジアではまだまだ弱いとされている点が、実は日本でも弱体化しているということである。

例えば、デミング賞実施賞受賞会社を見れば、近年はインド・タイからの猛烈な追い上げ状態である。近年のア

ジアからの受賞会社の活動は賭け値無しにすばらしい。以前の世界をリードした日本のTQC先進企業の活動と比較して見劣りするものではない。更には、それらは、賞狙いの活動の結果ではない。賞への挑戦という機会を使って、基本を強化し、自社の実態に合った活動の展開に成功し、確実に実力をつけた成果である。

また、例えば、日本では消え去ろうとしている「真に役立つ管理図」も、現場力向上とともに現場に溶け込んでいる。

一方で、アジアで遭遇する品質管理上の問題点は、そのまま今の日本でも遭遇する。

例えば、現地社員対象の品質管理の基礎的なコースで驚かされるのは、日系企業においてもかなりのベテランでさえ基礎的な知識が極めて不足していることである。それらの企業の現場を訪問すると、品質管理とはデータを取ることだけであったり、検査をすることだけであったりする。工程管理という名のもとで行われているのは、原因追究無しの応急対策だけであったりする。当然品質など良くなるわけが無い。品質管理の基本的な活動とその能力が不足している。

それでも、40～50歳代の日本人現地幹部の方々は、その現状を憂い、品質管理の必要性を痛感しているのが救いである。それより若い日本人社員は、

実は自分自身が教育を受けたことも無い。規定に従った仕事はこなせるが、その基本が分かっていないので、改善も出来ないし部下に教えることも出来ない。近年、それがそのまま多くの日本国内企業にも当てはまってしまっている。

なお、ANQ諸国の中には、現地の現地による現地のための教育機会が整備されつつある。しかし、どうも、日系企業からはあまり参加していない。

アジアの品質管理活動の中で日本との違いを敢えて過大評価して言うならば、その熱意とダイナミズムではなからうか。多くの日本人が既に失ってしまった品質に対する強烈な熱意がある。その実現に向けて我武者羅に突っ走るダイナミズムである。

本年から、財団法人海外技術者研修協会が、日本の若手専門家を講師陣とした新規コースを開始した。その中で、講師陣が一様に驚いたのが、参加者の熱心さであり貪欲さである。講義中の積極的な質問が、山のように降ってくる。納得するまで引き下がらない。まして、講義中に寝ている者などは皆無である。日本にはこのような力が残っているだろうか。

偏った実感からアジアを礼賛しすぎてしまったかもしれない。事実はどうか? ANQ Congress 2009 Tokyoでご確認頂きたい。

2009ANQ 公式サイト:

<http://www.anq2009.org/>

## 第340回中部 事業所見学会 ルポ

### (株)ヤマザキマザック 美濃加茂製作所

さる平成21年5月12日(火)に第340回事業所見学会(中部支部第85回)が、(株)ヤマザキマザック美濃加茂製作所(岐阜県美濃加茂市)にて開催された。『工作機械の品質づくり～技術と技能の融合～』のテーマの下、41名が参加した。

同社は90年前、「畳を織る機械の製造」に始まり、旋盤、フライス盤などの工作機械を製造する歴史のある会社で、美濃加茂製作所は、1983年より操業を開始し、金型部品や金属部品など、精度が高く、早く加工ができる複合NC工作機械の製造をしている。

見学に先立ち、小坂製作所長による概要紹介の中で「受注内容に同じものはない」という言葉に表されるように、お客様の要望により1台ずつ異なる仕様の機械を、設計・生技・製造・メンテナンスサービスに携る全ての人の技とチームワークにより、高品質に作り込

み、高性能・高精度に維持されていることに感銘した。特に、製造に携る人の育成は、「MAZAK道場」を創設し、モラルや基本的な作業の習得と共に、技能検定、技能伝承教育といった機械作りのプロになる為の様々な取り組みをされていた。

見学では、広い工場を一通り巡ることができた。生産されている工作機械は複雑な形状をした部品や多くの機能部品を組み立てて完成する。工作機械の加工精度は、構成部品の精度により決まるため、その品質の造り込みには、作業員一人一人の高い技術とモノづくりへの意気込みが不可欠であり、その一端を、ボールねじの製造工程の見学で感じる事ができた。

充実した見学内容と丁寧な説明により、非常にわかりやすく、意義のある見学会であったと思う。また、参加者による意見交換会では、参加者自身が目で見て、聞いて、感じたことを様々な意見として、相互に出し合い、活発に意見交換ができた。私たちの身の回りにあるあらゆる製品の製造はヤマザキマザックのような工作機械の品質の作り込みにより、支えられていることを改めて感じた。 赤川 直也(トヨタ紡織(株))

## 第341回 事業所見学会 ルポ

### NITE (製品評価技術基盤機構)

2009年4月14日、第341回事業所見学会がNITE製品安全センター(東京都渋谷区)において30名の参加を得て開催された。NITEは、大阪本部、東京本所の他に全国8支所があり、生活安全、バイオテクノロジー、適合性認定、化学物質管理の4分野で、経済社会の発展と国民生活の安定を支える技術的な基盤の整備に携わっている独立行政法人である。プログラム前半はセンター施設の見学、後半は講演・質疑という二部構成であった。

前半の見学では、事故を起こした実物を前に事故原因の技術的な説明をNITEスクエアで受けた。一酸化炭素中毒事故を起こしたガス給湯機やFF式暖房機、皮膚障害を発生させたデスクマット、爆発した圧力なべや湯たんぽ、燃えた扇風機・テレビなどと事故再現ビデオを見た参加者から、教育用としてビデオ貸し出しの希

望が出るくらい製品安全を生々しく訴えるものであった。次いで、国際的に高い評価を受けているバイオテクノロジー施設を見学した。微生物利用に関する知的財産保護への努力、気の遠くなるような作業を要するゲノム解析の苦勞に触れた貴重な体験であった。

後半では、「くらしの安心を未来につなぐ」と「製品安全とは何か」の講演が行われた。講演者の長田敏氏は大阪から日帰り出張で臨まれたとのことで、専門家らしい知見の深さと自信をもって丁寧に質問に回答されている姿が印象的であった。製品安全に関する官民の相互分担や、リスクアセスメントに基づく事業者独自の安全対策が重要性を増すとのことである。

見学会終了後、期せずして意見交換のための懇親の場が設けられたのは非常に有意義な機会となった。

事業所見学をお引き受けいただいたNITEの矢野友三郎氏、運営をご担当いただいた宮川七重氏をはじめ、関係者各位の心のこもった見学会であった。NITEスクエアは一般公開されており、事故再現ビデオの貸し出しもできるとのことであり、多くの方の利用を願う次第である。 村川 賢司(前田建設工業(株))

## 第105回 関西 講演会レポート

### 「躍進する 元気なモノづくり」

5月18日(月)大阪中央電気倶楽部において、関西支部主催の第105回講演会が標記のテーマで行われた。折からの不況に加えて新型インフルエンザの影響もあり、当日欠席者も出る中、70名の参加者が熱心に聴講した。

サントリー酒類(株)ビール事業部商品開発研究部技術顧問の山本隆三様に「ザ・プレミアム・モルツ開発と成功」を、東大阪宇宙開発共同組合専務理事の棚橋秀行様に「人工衛星プロジェクト～モノづくりは人づくり～」のご講演をいただいた。

山本様は商品開発成功に一番大切なものは最初の「志」であり、世界最高のビールを作りたいという強い思いであることを強調された。それに加えてミニブルワリーという小規模量産できる設備設置や、苦み成分等を定量化する技術開発、さらに開発ストーリーを語ることを通じて消費者がファンに変わったことが成功

につながった。これらはサントリーのDNAである「やってみなはれ」「やらせてみなはれ」の精神が基本にあったからであるとお話であった。

棚橋様は東大阪の3Kのイメージを変える何かをしたと、「夢で始まり情熱を結集しこころ豊かな社会を創る」という理念の下、夢・志を希望につなげ、それを目標にしてPDCAをやり続けることを強調された。途中には大変なこともたくさんあって、何度止めようかと思ったこともあったが、若者のひたむきさに打たれて続けられたというお話であった。

山本様は技術屋らしい、棚橋様は東大阪の経営者らしいお話振りど好対照であったが、お二人とも「志」を大切に一所懸命実現に努力する大切さを語られた。長引く不況、そして不況が過ぎた後に来るであろうこれまでの価値観とは異なった社会に向けて、真に人間が幸福になるためには目先の損得ではなく、本当にやりたいことに大きな「志」を持つこと、そしてその達成にひたむきに努力してゆくことが大切であるということに改めて思い直した講演会であった。

鱈谷 佳和 (関西支部幹事)

## 2009年4月の 入会者紹介

2009年4月17日の資格審査において、下記の通り正会員10名、準会員13名の入会が承認されました。

(正会員10名) ○齊藤 雅之 (東芝)  
○小柴 研一・鈴木 暁 (ベリサー

ブ) ○黒河 英俊 (アルプス電気)  
○柳澤 貴保・清水 彰 (サンデン)  
○藤澤 由和 (静岡県立大学) ○池田 真人 (改善計画) ○久保 照夫 (資生堂) ○中山 寛治 (日本自動車工業会)

(準会員13名) ○劉 景躍・孫 艶麗・張 一 亮 (朝日大学) ○土居

大地・小川 大輔・加川 洋平・大室 陽・中太 彩子・竹内 駿介・金子 英俊 (早稲田大学) ○伊藤 貴裕 (青山学院大学) ○梶原 誠・早乙女 慧 (中央大学)

正 会 員：2681名  
準 会 員：72名  
賛 助 会 員：171社198口  
公 共 会 員：22口

## お知らせ

### 役員・代議員選挙告示

(社)日本品質管理学会第39年度～第40年度(2009～2011年)の役員ならびに代議員の選挙を次の日程で行います。

投票用紙発送：7月24(金)～27(月)

投票締切日：8月28日(金)

当日消印有効

開 票 日：9月1日(水)

## 教員公募

### 青山学院大学理工学部経営システム工学科 教員公募

1. 募集人員 教授または准教授 3名
2. 所 属 理工学部経営システム工学科
3. 専門分野 経営工学(経営管理、IE・生産管理、情報処理の3分野から各1名)
4. 応募資格 (1)博士の学位を有し、学部および大学院の教育・研究に熱意のある方、(2)専門分野について優れた業績を有する方、(3)キリスト教に理解のある方、(4)相模原と青山の両キャンパスに出講できる方。
5. 着任時期 2010年4月1日
6. 提出書類 ホームページをご覧ください。  
[http://www.aoyama.ac.jp/other/recruit/faculty\\_staff\\_29.html](http://www.aoyama.ac.jp/other/recruit/faculty_staff_29.html)
7. 応募締切 2009年7月13日(月) 消印有効
8. 書類送付先および連絡先  
青山学院大学理工学部経営システム工学科 学科主任 天坂 格郎  
e-mail : saiyoo@ise.aoyama.ac.jp

## The 7th ANQ Quality Congress 開催ご案内 参加のお勧め

Organized by : Asian Network for Quality

Hosted by : Japanese Society of Quality Control, and Faculty of Science and Engineering, Waseda University

Supported by : Union of Japanese Scientists and Engineers, and Japanese Standards Association

2009年9月15日～18日、東京にて、第7回アジア品質ネットワーク (ANQ: Asian Network for Quality) Quality Congress が開催されます。ふるってご参加ください。

また、個人からの寄付も申し受けいたします。

テーマ:

“Prosperity through Quality - The ANQ Way”

場所: 早稲田大学 (東京) 西早稲田キャンパス

公式言語: 英語

申込先: <http://www.anq2009.org/register.html>

参加費: 7月15日(水)まで US\$ 150

7月16日(木)以降 US\$ 200

\*発表者は各\$50割引

支払方法: クレジットカード

企業訪問: 海外からの参加者優先です。JSQC会員の参加を受け付ける場合は、海外からの参加申込の終了後 (8月以降を予定) となります。

寄付受付: office@jsqc.org (1口5万円)

## 行事案内

### ●第107回講演会・第128回シンポジウム (中部)

テーマ: 実践的Qの確保—ものづくりを俯瞰した源流からの未然防止—

日時: 2009年7月10日(金)13:00～17:10

会場: 刈谷・シャインズ

プログラム:

基調講演: 「信頼性・未然防止のマネジメント (仮題)」  
吉村達彦氏  
(GD3コンサルティング)

事例講演① 「ものづくりプロセスにおけるばらつき低減の体系化」  
仁科 健氏 (名古屋工業大学)

事例講演② 「自工程完結の考え方と実践事例」  
大野秀樹氏 (トヨタ自動車株)

事例講演③ 「パナソニックにおける品質職能の育成」  
橋本 元氏 (パナソニック株)

パネル討論: 全講演者

参加費: 会員 4,000円 非会員 5,000円  
準会員 2,000円 一般学生 2,500円

申込方法: 中部支部事務局までお申し込みください。

### ●第90回研究発表会 (中部)

統一テーマ: 「実践的Qの確保」の構築

日時: 2009年8月26日(水)10:00～17:00

会場: 名古屋工業大学

申込締切: 8月19日(水)

参加費: 会員 4,000円 (締切後4,500円)  
非会員 6,000円 (締切後6,500円)  
準会員 2,000円 一般学生 3,000円

申込方法: 中部支部事務局までお申し込みください。

詳細: ホームページをご覧ください。  
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

### ●医療のための質マネジメント基礎講座 (医療の質・安全部会)

一日2回、計14回開催—

会場: 第1回～第10回

早稲田大学 西早稲田キャンパス  
62号館

第11回～第14回

日本科学技術連盟 東高円寺ビル  
2階講堂

プログラム:

第1回 8月30日(日)9:30～12:30  
質マネジメントの基礎

第2回 8月30日(日)13:30～16:30  
医療の質マネジメントシステム(QMS)

第3回 9月12日(土)9:30～12:30  
POAM (業務プロセスに注目した  
与業事故分析手法)

第4回 9月12日(土)13:30～16:30  
インシデント分析と対策立案

第5回 9月13日(日)9:30～12:30  
転倒転落事故の防止

第6回 9月13日(日)13:30～16:30  
医療安全管理システム

第7回 10月3日(土)9:30～12:30  
PFC (Process Flow Chart)を用いた  
医療プロセスの標準化(1)

第8回 10月3日(土)13:30～16:30  
PFC (Process Flow Chart)を用いた  
医療プロセスの標準化(2)

第9回 10月4日(日)9:30～12:30  
医療における文書管理

第10回 10月4日(日)13:30～16:30  
問題解決法と改善の進め方

第11回 11月7日(土)9:30～12:30  
患者状態適応型パスシステム(PCAPS)  
の基本(1)

第12回 11月7日(土)13:30～16:30  
患者状態適応型パスシステム(PCAPS)  
の基本(2)

第13回 11月8日(日)9:30～12:30  
KYT (危険予知活動)と5S活動

第14回 11月8日(日)13:30～16:30  
QMSの導入・推進方法

定員: 150名

参加費:

部会員 1回 5,000円/通し 60,000円

会員・非部会員 1回 7,000円/通し 84,000円

非会員 1回 15,000円/通し 180,000円

詳細: ホームページをご覧ください。

<http://www.jsqc.org/ja/division/med/iryu.html>

申込方法: 部会事務局までE-mailまたは  
FAXにてお申し込みください。

E-mail: secretary@tqm.mgmt.waseda.ac.jp  
部会事務局 加藤・吉村

FAX: 03-3232-9780

TEL: 03-5286-3304

(早稲田大学理工学部経営シ  
テム工学科 棟近研究室)

### ●第91回研究発表会 (関西) 発表募集

日時: 2009年9月4日(金)

会場: 大阪・中央電気倶楽部

申込締切: 発表申込締切: 7月10日(金)

予稿原稿締切: 8月20日(水)必着

※詳細は追ってお知らせします。

### ●テクノメトリックス研究会 研究報告シンポジウム

テーマ: タグチメソッドの理論と応用

日時: 2009年9月19日(土)10:30～17:00

会場: 成蹊大学 8号館

参加費: 無料

問合せ: 成蹊大学 中西寛子

申込先: nakanisi@econ.seikei.ac.jp

※返信はいたしません。

### 行事申込先

JSQCホームページ: [www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本部: TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

中部支部: TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部: TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org